

2010年度

ふじ たけい すけ
理事長：藤田圭亮



01

理事長としても最も重視された点をお教え下さい。

自分が考えていることを、対内・対外にどれだけ伝えきることができるかを考えて1年間取り組んできました。

02

スローガン、基本方針を掲げた想いやそのプロセスをお聞かせください。

12年間に在籍したJC活動の中で私自身が最も心掛けていた、「足元を見つめる」ということをスローガンに掲げました。我々はJCマンである前に親であり社会人です。まず足元を見つめて、何をやるべきかをはっきりさせなくては、JC活動及び運動が意味のないものになってしまうと思います。理事長を務めた年は5年目の節目でしたから、JCが社会から何を求められているかははっきりとさせる意味でも、足元を見つめ直す必要がありました。

03

JCで学んだことの中で最も大切だと思うことはなんですか？

たくさんありますが、卒業後に気づいた事も多くあります。Jayceeは地域のリーダーたることを求められ、そのための資質としては、リーダーシップや積極性、伝達能力など色々ありますが、Jayceeとして最も大切なことは、地域やメンバーのために、自らの利益を求めない自己犠牲能力だと思います。

04

1年間、理事長をやり一番嬉しかったことを教えてください。

理事長が終わって4年が経過していますが、当時伝えなかった事が伝わっていると分かった時が嬉しいですね。

05

今のJCと当時のJCの違いがあったら教えてください。

JCは単年度制で、その年度ごとの理事長の所信で動いているわけですが、歴史の中で見てみるとそれほど変わらないのではないかなと思います。

06

過去の理事長所信等を読ませて頂き、JCは単年度制ながらも代々の理事長で伝わっているものがあるように思えました。そういったものはありましたか。

旧静岡青年会議所の先輩がこんなことをおっしゃっていました。「変えない勇気と変える決意」。口に出すと難しいのですが、委員長を支える委員会制度や卒業予定者制度など、変えてはいけないものが脈々と受け継がれていると思います。それらが積み重なって静岡JCが出来上がっています。別の先輩はJCを、色々な食材やスパイスが入って、煮込んで、どんどんおいしくなるカレーに例えていました。

07

これからのJCが果たすべき役割は何だとお考えですか？現役メンバーへのエールも同時にお願致します。

地域の中で存在感や発言力、影響力をもっている組織でいてほしいと思います。ルールや上下関係が厳しいただの社会人サークルではなく、歴史があって、街づくり人づくりに取り組んでいる団体として常に研鑽を怠らず、JCがあって良かったと思われる団体に成長させて下さい。そのために足元を見つめて行動する必要があります。

08

人口流出全国ワースト2の我がまち静岡の現状をどうお考えですか？

当時の理事長挨拶でも何度か触れていますが、私自身非常に危機感を持っています。こういう時だからこそJCとしてこの問題に取り組み、民間から行政への働きかけを主導すべきだと思います。静岡は交通インフラが整備されているし、世界遺産の富士山を有しています。無いもの探しをするのではなく、あるもの探しをすることでこのまちをアピールできるのではないのでしょうか。他には、市外から転居してくれた方に家賃を補助してもその分は税収入で賄える、という策も考えられます。

09

静岡JCの歴史沿革の中に記すとした時、2010年度のキーワードとして『強いJC』『挑戦』『足元を見つめ』等があると思いますが、藤田シニアにとってその年をひとりで表すならどのような言葉を選びますか。

やはり、「足元を見つめる」、この部分が静岡青年会議所の基本姿勢になってほしいと思います。

10

経済不安を背景にし、大企業への就職で安定を求める若者が増えている現在、私たちは「挑戦」することを忘れて来ている気がします。スローガンや所信にもうたわれていますが、藤田シニアにとっての「挑戦」とはどんな意味がありますか？

「挑戦」とはつまり、大変な方を選ぶということです。それがたとえうまくいなくても、その経験が血肉になり、自らの成長を促してくれます。道に迷ったら、是非大変な方を選んでください。

11

スローガンにも所信にもあります「足元を見つめ」という言葉がとても印象的に心に残っています。

一年を通じて、静岡青年会議所メンバーがどのように変わったと感じましたか？

実際にみなさんに伝わったかどうかはわかりませんが、私自身が強く言い続けて伝えなかった事ですから、この言葉が心に残ってくれていれば嬉しく思います。

12

静岡青年会議所初の海外事業を行った経緯と、成果を教えてください

事業の背景には人口減少問題があります。流動人口を増やすには、県外や海外から多くの人を招き入れる必要があります。この事業では、様々な職種の青年30名に御参加いただいて、「静岡のあるもの探しをして、海外の人たちに発信していこう」ということを要望しました。これをきっかけに、静岡県が同様の事業を引き継いでくれています。また、当時の参加者が今も静岡の国際化について考え、自ら希望を出して海外勤務へ挑戦している話も聞いています。

13

2010年は海外事業をはじめ、大成功を収めた未来学園事業、異業種の交流会など記憶にも記録にも残る活動が多かったと記憶しています。その中でも藤田先輩が印象的だった活動を教えてください。

一年を通してメンバーが頑張ってくれたわけですから、個別にということはありません。ただこの年、小学生には未来学園、中学生にはUnited Children、大学生や社会人には国際交流事業を通して、すべての世代にJC活動・運動を発信できたことは印象深いことです。

取材全体としてのまとめ・感想

足元をみつめる。JCとしての活動を展開する前に、自分たちがどのような団体として求められているかを大切にされていました。5周年という節目の年で新たな事業にも挑戦され外部へのアピール度が高い1年でしたが、しっかりと地に足を付けて活動するよう求めていた理事長の想いが大成功へ導いたという印象を受けました。

取材前と後での特に気付いた点

スローガンとして掲げられた「足元をみつめる」という言葉は、静岡JC合併5周年という節目の年にJCという組織のみに限定されたことではなく、親であること、社会人であることの全てを含めた中での「足元を見つめる」という意味であったのだと取材を通して判りました。足元がしっかりとしていなければJC活動を含め社会人としての活動・運動が意味のないものになってしまうのだと感じました。